



生きものの“つぶやき”：
「(無念)」

エッセイ：

生物部の引退合宿で海に調査に来ていた時、帰りがけに小川を渡るとそこには動物の亡き骸が。近寄ってみるとどうもイタチのようです。体のほとんどが水に使った状態で、腐敗もしておらずとても綺麗な亡き骸でした。今にも何か呟いてくれそうです。しかしこの子が何かを語ることはもうできないのです。

ここは海が目と鼻の先の場所。あと少しで海に辿り着きます。海まで流されるとどうなるのでしょうか。

きっと栄養の塊として海に棲むスカベンジャー達によって食べられ分解され、跡形もなく消えてしまうのでしょうか。

陸地と海の栄養循環をあらためてこの目で見て感動しました。今ごろは他の生き物たちの生きる糧となっているのでしょうか。生命としては死んでいても、環境をつくる生き物としては“生きている”のだと思いました。(336字)

生きものの紹介：

ニホンイタチ ネコ目イタチ科

雄は大きくても 40 センチ、雌は 30 センチにも満たない小型の肉食哺乳類。

日本固有種。ただし北海道では国内外来種。主な活動域は水辺で、手指に水かきがある。

ネズミ、鳥、両生類、魚、甲殻類などを食べる。

撮影場所・日時：

長崎県南島原市有家町小川 2022 年 5 月 28 日

応募者の自己紹介：

1. 藤田晴大／長崎県立長崎北陽台高等学校・3 年
2. 所属：生物部

審査員からのコメント：

死を扱った作品。死も含めての生き物であるという感性を大事にしたい。